

令和6年度 第1回 食育推進検討部会 会議録	
日 時	令和6年7月23日（火）午後6時30分～8時30分
開 催 場 所	市庁舎18階みなと1・2会議室
出 席 者	食育推進検討部会委員12人（別添資料1）
欠 席 者	食育推進検討部会委員3人
開 催 形 態	公開（傍聴者 0人）
議 題	1 開会 2 あいさつ 3 委員紹介 4 議事 (1) 第3期健康横浜21及び横浜市食育推進計画（第3期）について (2) 横浜市食育推進計画（第3期）の目標に関連する取組について 5 報告 (1) ハマの元気ごはん弁当の販売について 6 その他 今後のスケジュールについて
1 開 会	
2 あいさつ	
3 委員紹介	
4 議 事	<p>【議事1】第3期健康横浜21及び横浜市食育推進計画（第3期）について 資料3-1、3-2</p> <p>（金子部会長） 事務局からの説明に対して質問や意見がある委員はいるか。</p> <p>（岩本委員） 全体の説明を伺うと、食を通しての健康の部分が強調されているように感じる。昨年度検討した内容ではあるが、これから取り組むに当たって、基本目標2「食の多様性や横浜らしい食文化を継承し、食に関する持続可能な環境を整える」の推進テーマの検討が弱いかと思う。横浜の食文化、地産地消、横浜の食育の産業をどう推進・連携していくか、そして今回第3期健康横浜21に食育推進計画が一体的に計画されたわけだが、計画期間内に国の第4次、今度策定される第5次食育推進計画の目標が変更並びに策定された時、いつどのタイミングで合わせていくのかが見えない。</p> <p>また、前回（第2期横浜市食育推進計画）における数値目標を評価した際、数値の比較が難しいと思った。社会状況の変化が著しい昨今、今後中間評価、最終評価を数値だけでなく社会情勢を含めてどのように考察すべきか難しいと思っている。</p> <p>（金子部会長） 事務局から何かあるか。</p>

(事務局)

計画期間は国に合わせ 12 年間としている。今回、健康横浜 2 1 に一体的な計画となつて、計画に関わる関係機関、団体が増えることにより、取組はより発展してくるのではと思っている。計画は今年度スタートし、目標、指標が決まったところなので、取組に関しては、関係機関団体と連携し、食育推進検討部会の場にて検討しながら進めていきたい。

また、国の食育推進基本計画が策定されたのち、内容を確認し、修正の必要があれば、対応していく予定である。評価についても、中間評価を行った際に目標値の見直しが必要であれば、検討した上で、修正していく予定である。

(岩本委員)

目標値は、中間評価等の数値を見て修正するということか。

目標値は達成すれば、さらに数値を引き上げ、常に上に目標値があるということか。中間評価で目標値を上げると、達成した状況がなくなるということか。

(事務局)

当初の目標が達成され、さらに上を目指すのに数字を更新するということなので、それまでの取組や計画がなくなるわけではない。中間評価のタイミングで、結果を確認し、検討部会で検討し修正した等の経過が残れば、取り組んだ内容や努力は残ると考えている。

【議事 2】 横浜市食育推進計画（第 3 期）の目標に関連する取組について
資料 4

(金子部会長)

委員から、食育推進計画に関する取組予定の説明をお願いします。進行の都合により、一人 3 分程度で説明いただくようお願いする。名簿順に指名するので、説明をお願いします。

(飯笹委員)

一番力を入れている活動を紹介する。

令和 8 年度から中学校給食が全員給食となる。教育委員会とコラボをして、新しいメニューを作ったりしている。

実際給食を食すると冷たいものが多く、子どもたちに不人気ということがあり、来年度より、汁物食缶を考えていて、温かい汁ものを提供しようと検討している。そして、横浜らしいメニューに取り組みたいと思い、横浜的な和洋中の 3 つの汁物食缶を検討している。生徒たちの思い出に残るような、美味しかったなとずっと思ってくれるような、そして栄養価の高いメニューを開発していこうと考えている。今月から試作し、子どもたちに食べてもらい、子どもたちの意見を取り入れながら給食を作っていけたらと思っている。

(金子部会長)

これは教育委員会から話があったのか。

(飯笹委員)

6年前、教育委員会から話があり、検討。当時の喫食率は2%だった。マスコミ等で、ひどいお弁当だと言われていた。

塩分の制限があり、塩分を減らすと子どもたちの受けが悪い。そこで、だしを活用するようアドバイスしたり、ガストロノミとコラボしたり、他の団体とコラボしたりして、少しずつ子どもたちに興味を持ってもらい、現在は45%の生徒が食べている。令和8年になる前に、もっと喫食率を上げたい。

働いているお父さんお母さん、お弁当作るのが大変。毎日でなくとも、週に1、2回でも利用して、少しでも楽にできる時があればと思う。また、令和8年に向け、生徒たちに喜んで食べてもらえるようなメニューを提案していきたいと思う。

(岩本委員)

小学校の栄養教諭でしたが、開港150周年(H21年)の時に横浜ガストロノミ協会と連携して姉妹都市のリヨンの献立を学校給食に取り入れていただいた。提供までにはいろいろ苦慮されることはあったが、当時の給食(リヨン風スープ、ポテトリヨネーズ、アイスクリーム等)の評判はよく、教育委員会、霧笛楼のシェフがメディア等に出られて、開港150周年を全国的にPRできたと思う。これが横浜らしい、横浜の食文化らしい取組だと思う。今回も中学校給食の評判を向上させるために再度横浜ガストロノミとの連携があると聞いて、このように学校給食を通して横浜の子どもたちにシェフの味を伝えるという取組も横浜ならではの食文化継承なのではないかと思った。

神奈川県栄養士会が行っている事業はかながわ健康財団や歯科医師会等の団体と連携して行っている事業となる。12番の取組は、栄養士会独自にお魚を離乳食に取り入れた日本の食文化を考慮し、推進テーマの「日本の食文化の継承」にあたる取組だと思う。

14番の取組は災害についての取組となるが、献立の提案や災害があった時に、器がなくても、レトルトパックの底にマチをつけ自立するように商品開発がされている。災害関係のイベントに呼ばれることが多くなっている。

他、(一社)横浜すばいすが行っている「横浜の子どもが作るお弁当コンクール」は、今年で10回目となるがここにいらっしゃる委員にもご協力いただき、横浜市の小・中・特別支援学校の子どもたちを対象に開催して好評である。

(君塚委員)

弁当・総菜の製造販売とレストランの営業を行っている。取組としては、健康の視点よりは、社会・環境・食文化・食の安全の視点に関連するテーマが多い。食育として、商品開発や店頭で実施するのは、日ごろの営業の中では難しいので、お弁当コンクールでの協力や外部の参加されている方たちに協力するような形になっている。

皆さんの知恵とアイデアの中で、今後、コラボなどには柔軟に考えたい。

販売の中心は弁当が多く、食中毒予防を意識した安全面の配慮は常に考えられている。そういった面について食品衛生協会と連携し、教育などを行っている。食の安全の部分を中心に、食育テーマ全般に至っていないところもあるが、大きな面で見れば、現状維持といったところである。

(金子部会長)

資料を見ると、市内産の小松菜を使ったメニュー提供や食中毒予防、ローリングストック法の紹介、もったいないを見直そう弁当等についても広く食育に取り組んでいると思う。今後、他の委員とのコラボできる場所があればという意見もあったので、今後発言される委員で、いいアイデアがあれば、一言入れて発言をお願いする。

(菅委員)

日頃、料理教室を中心に行っている。旬の野菜を使った料理教室、ローリングストックを応用した料理教室、フードロス削減に向けた料理教室等をやっている。また、神奈川県栄養士会の講師を実施することになっている。巡り巡って、子どもたちの給食のメニューになる可能性があるので、食育に関係するかもしれない。

5月から、泉区の一般社団法人「かけはし」で月1回、「作って食べよう」という食育講座を開催している。「かけはし」は、不登校の子どもたちが学校ではなく通える居場所である。登録している子どもたちが勉強や遊びを行っている。

第1回目は、おにぎりとお味噌汁(みそ汁のもとになるようなもの)を作った。

月1回開催している間に、市庁舎の2階にある「TSUBAKI 食堂」から声がかかった。TSUBAKI 食堂では18区井というのを提供しており、8月の井が泉区井で、「かけはし」の子どもたちとコラボした「かけはし井」が、TSUBAKI 食堂で販売される予定。7月の活動では、かけはし井の内容を検討し、豚井に合うようなおかずを考えたりした。機会があれば、ぜひご賞味いただきたい。

(長島委員)

菅委員のお話で、活動をしていくとどんどん連携していくということをお聞きした。

生きづらい生徒の市立高校の3部制の居場所づくりカフェに携わって、7年になる。金子部会長、菅委員にもご協力いただいている。

夜間学級の外国籍の多いクラスの食育、また支援を行っている団体等に対する食育やお弁当提供等、切れ目のない食の支援の活動が出来たらと思う。

コロナ以降、PTAの依頼が少なくなってきた中、県立の清陵高校からYouTube配信するから、食育講座をしてほしいとの依頼があった。パワーポイントを使用し、

PTAのお母さんたちと相対しながら、話をした中で、子どもたちの食は家庭が基本になっていて、格差が広がっている中、だけど保護者は頑張っていることが分かったので、嬉しい時間だった。今後、増えていくことを願っている。

高齢者と関わるが増えてきたので、その分野でも活動を広げていきたいと思っていたところ、子ども食堂からの依頼でおやつ事業を始めている。子ども食堂を担っていた高齢者の方々と厳しい環境の子どもたちを含めて、支援していきたいと思う。

朝食の喫食率に課題があった。20、30歳代の人たちが、一人暮らしになると喫食率が下がったというのが課題だったと思う。

市立高校の朝食に関わる調査と課題取組をする予定、高校生を育てることで、社会人になっても朝食を食べるようになるよう、食の学びの連続性を継続していけたらと思っている。

(松谷委員)

飲食店に食品衛生責任者を設置している。年に一度、講習会を開催している。食中毒を減らそうと努力している。夏になると、食中毒が増えてくるが、業者より家庭で起こることが多い。アニサキスの食中毒が多い。

先ほどの中学校のお弁当だが、2%から45%に喫食率が上がったということは、製造するのにかなり時間がかかるということになる。今まで2時間ぐらいでできたのが、6、7時間かかるようになったはずである。小学校の給食室で作るのとは話が違うから、45%からもっと喫食率を上げていくと、もっと製造を前倒ししなければならない。食中毒のリスクを減らすのは、作ってから食べるまでの時間を短くすることである。

喫食率を上げていくと、製造での食の安全が心配である。今のやり方では難しいのでは。いろいろ工夫してメニュー開発もしているが、現状は、食べる時には冷たくなっていることが多い。そういう部分を改善していかないと、喫食率を上げるのは難しいと思っている。

(望月 (選) 委員)

我々は、物を作るというより、身体を動かす方なので、その観点で、小学校220校250回ぐらい、中学校36校に行っている。

小学校では、「身体を動かすもとは食べること」、食べる内容よりもまず食べる量が少ないので、「まず食べようよ」から話し、体育の授業で体を動かし、エネルギーを使ったから、給食を残さず食べようね。ということをコーチ2人1組で火～金で1日4校ぐらい回っている。

中学校では、学年ごと(170～180人程度)が多い、200人行かないところだと、全校で実施したりする。体を作ることは食べることで、スライドを使って、朝ごはんの量を確認したりしている。スライドを見せる前に、朝食を食べた人を確認する

と 90%程度が手を上げる。スライドを見せ、この量と同じくらい食べた人と聞くと、1/3になる。半分くらい食べた人と聞くと1/3増える。

残りの1/3は1口、2口でも食べてきたよ、という生徒。アンケートだけで取ると食べるになるが、実際量の確認をすると足りていない子が多い。家庭環境の影響もあると思うが。中学校では、昼食時間が早いと12時から始まり、遅いと12時50分から始まる。昼食時間が1時間違うと朝摂取したエネルギーは消費されてしまい、足りないので、朝食をしっかりと食べることは大事だよ。という話をしている。もう一つ、朝、トイレに行って排便したがどうかを聞いている。朝、排便してくる子は意外と少ない。夜が一番多い。朝食べないと、腸が動かない。なるべく朝、排便してくるために、朝しっかりと食べることを伝えている。

習い事、塾、外のクラブ等で夕食が遅い。夜10時過ぎにエネルギーの高いものを食べると、朝食欲がわかなくなるので、夜遅くに食べる時は消化のいいものにして、エネルギーが高いものは朝に回す等、食べることは、体を作ることにつながるということを意識してもらえるように、45分から1時間ぐらいでまとめて伝えている。

中学生に感想を聞くと、「朝食べている量は少ないかな」とか「これぐらいだったらできるかな」とかの感想がすごく多い。

長島委員も言っていたように小さいうちからこういった話を聞いていると、大人になってからも行動ができ、またその子どもへと、横浜の食育が回ってくるのかなと思っている。

(望月(悟)委員)

歯科医師会としては、健診、セミナー等を通して、赤ちゃんから高齢者まで幅広い取組を行っている。8020運動で歯が20本残っている高齢者が50%いる。同時に、歯周病患者も増える。フレイルになる前段階で、口に症状がみられるので、食べこぼす、むせる等の症状で歯科が一番に見分けられる。症状がみられた時に正常な状態に戻すような啓発を重要視して、セミナー等を実施している。

子どもに関しては、歯の萌出が遅れている。月齢に合った食べるものと口の状態が不一致になっているため、丸飲みになっている。知識をアップデートするための啓発を行っている。

筋肉の発達不全、ハイハイの期間が短くなっているため、広背筋等の発達が悪い。口腔環境も含めて機能低下というような子どもの課題も出てきている、ということを保護者に注意喚起している。

コラボでは、横浜市と良品計画とコラボ、ズーラシアとコラボして、動物の歯、人間の歯、草食と肉食と何が違うか?等の話について、子どもたちを集めて行う予定。

崎陽軒とのコラボも検討させていただきたい。

(吉泉委員)

市内小学校・義務教育学校 338 校に対する給食の食材を一括調達し、配送することを中核として行っている。

また合わせて、食育もしっかりやっという取組を進めている。

親子料理教室は、この 2 年間で非常に参加者が多くなってきている。親子で参加してもらい、小学校給食で人気のあるメニューを実際調理してもらい、家でも活用してくださいという取組をしている。倍率約 20 倍の応募がある回もある。募集人員 1 回当たり 20～30 人なのだが、関心が高まっている。

食育に関心を持つ市民を増やすというところで、学校主催の給食試食会では保護者対象で、給食の目的、準備、体制、調理の仕方、提供等給食についての講話を、職員を派遣して実施している。年間 40 回ぐらい、延べ 2000 人弱の参加者がある。給食の大切さを知っていただき、地域に広げていただくポピュレーションアプローチを行っている。

令和 8 年度から中学校給食がスタートする。

教育委員会事務局が実施主体となっていくのだが、食材調達は、一括して、よこはま学校食育財団が行うことになっている。開始まで 600 日を切ったが、食材由来の欠品を一つも出さないよう、やり遂げようと取組を進めている。

小学校が約 19 万食、中学校給食は約 8 万食を提供していく。給食を通して、小学校、中学校の子どもたちに食文化をきちんと伝えることができることによって、将来の横浜を支える大人になった時に、次の世代に「食事っていうのは大事なのだ。」ということを引き継いでくれるだろう。そのための基礎をつくるために、現在奮闘している。

(米山委員)

全世代に食育の啓発を行っているボランティア団体である。

全世代に対して、「1 日 3 食、栄養バランスよく食べる」「適正体重を維持する」を目標として、活動を実施している。特に育ち・学びの世代に対しては、1 日 3 食、食べること、朝食もしっかり食べることについて、強調して啓発を行っている。会員の方で、いろいろ資料等を作成したりしている。

「適正体重を維持すること」については、特に働き・子育て世代に対して、仕事に忙しい毎日で、適正体重を維持することに苦慮していると思うが、よく噛んで食べることを伝えたりして啓発を行っている。

活動を通して、家族や友人と食事をするのは大切だということ伝えていく。今年度から「暮らしの備え」と「日頃から災害に備え、食料品等の備蓄に努める市民を増やす」ことも目標としている。自然災害や感染症も含め災害ととらえて、災害食についての啓発も始めた。区によって経験の差があるので、勉強しながら啓発することを進めていきたい。

ボランティアに携わっている世代が幅広く、社会も結構変わってきていて、世代

	<p>間のギャップもあるが、お互いを認めながら楽しく活動することを市民に見せることも食育の一つと考えている。</p> <p>(天貝委員)</p> <p>市の医師会としては、実際食育に関わることはないという状況ではあるが、12万部発行している健康誌で栄養士会の先生に御協力いただき、季節の食に関する執筆をいただいている。学校医がいて、身長・体重を見ると肥満の子が増えている。糖尿病の先生から聞くと、食事の内容が偏っている、ということが誰に聞いても上がってくる。</p> <p>精神科医だが、メンタルヘルスにおいても、食事は非常に大切だと思っている。統合失調症の患者さんは、薬の影響もあり、どんどん体重が増えていく。それが平均寿命を10年ぐらい短くしている。</p> <p>摂食障害、極端に痩せが進む。ボディイメージの障害で、極端なやせだと認識できない。30kg、20kgになってしまう人もいる。コロナ禍を経て増えている。お酒の飲み過ぎについては、今、ストロング系などのアルコール系飲料が流行っている。適量を守るのはなかなか難しい。</p> <p>そういったことでメンタルヘルスに不調をきたす人が多い。</p> <p>極端にさみしい食事内容の方も多くなっている。</p> <p>皆様の取組を聞き、豊かな食生活は、バランスよく3食しっかり摂れるというのは、貴重な取組だなと感じた。</p> <p>引きこもりの若者たちがなかなか社会に入っていけなくて、引きこもりになる。そういう方の食事も偏ったりしている。そういう方たちがリハビリで通う「若者サポートステーション」というのがあり、そういう場でも食育の事業が進められると、精神的健康に大きく寄与するのではないかと。</p> <p>(金子部会長)</p> <p>それでは、議事(2)「横浜市食育推進計画(第3期)の目標に関連する取組について」は、ここまでとする。</p>
5 報 告	<p>【報告】 ハマの元気ごはん弁当の販売について 資料説明(資料5-1、5-2)</p> <p>(金子部会長)</p> <p>事務局から説明があったが、これについて、質問・意見等はあるか。</p> <p>(岩本委員)</p> <p>そうてつローゼンのお弁当を3回とも食べている。3回とも売り場の一番目立つ場所に置いてあった。売り場の人に意見も聞いたが、売れ行きがいいとのことだった。市の方で取組をPRすることによって、食の取組をやっていることが市民にわかり、シンボルになるのではと思うので、今後も継続していただきたい。</p> <p>自分たちは、新しい目標、指標を考慮し、前例踏襲の取組でなく、見直して検討することが必要だなと思った。</p>

	<p>(金子部会長)</p> <p>ハマの元気ごはんは、弁当だけでなく、外食も含める。</p> <p>私も、そうてつローゼン、イオンの3種類のお弁当を食べた。それぞれお店の特徴があつてよかった。これから、いろいろなハマの元気ごはん弁当が出てきて、それを市民の方が選べて、栄養のことを気にせず、安心して食べられる、健康を維持できるということになると大変いい。それが食環境づくりということ。一昨年前から事務局が苦勞して取り組んできた。軌道に乗っていくとよいと思う。</p> <p>それでは、本日の検討会の検討は以上とし、進行を事務局に返す。</p>
閉会	<p>(事務局)</p> <p>金子 部会長をはじめ、委員の皆様には様々なご意見、ご助言をいただき、ありがとうございました。</p> <p>次回の部会は11月19日(火)、本日と同じ18:30から開催する。</p> <p>これで、本日はこれにて閉会とする。</p>
資 料	<p>資料 1 健康横浜21推進会議 食育推進検討部会 委員名簿</p> <p>資料 2 食育推進検討部会設置要綱</p> <p>資料 3-1 第3期健康横浜21の概要について</p> <p>資料 3-2 第3期横浜市食育推進計画</p> <p>資料 4 食育推進計画(第3期)の目標に関連する取組</p> <p>資料 5-1 記者発表資料(相鉄ローゼン株式会社)</p> <p>資料 5-2 記者発表資料(イオンリテール株式会社)</p>